

特定非営利活動法人分析産業人ネット

第 10 期活動報告

平成 25 年度

2013.4～2014.3

ご挨拶

理事長 澤田嗣郎

今年度も当法人の活動に御協力戴きありがとうございました。第 10 期を迎えた今期は、今まで継続してきた社会貢献活動に対してタイの泰日工業大学より表彰を受け、ナーチャー賞エッセイコンテストでは多くの方の応募を戴きました。今年度は事業活動の一層の推進のため事務局の人員を増やし、新たにガイドブックの発行等により収入の確保に努めました。来年も引き続き、会員をはじめとする皆様の、当法人の活動への御支援、御鞭撻をお願い致します。

平成 25 年度の活動概要

平成 25 年度の我が国経済は円安による輸出競争力回復によって景気を押し上げるという思惑が外れ、年間にわたり経常赤字が続きました。機器分析を担う産業分野では科学技術関連予算の伸びや補正予算による機器の購入等が増えたものの、当法人が事業対象とする領域では顕著な動きはありませんでした。このような状況の中で、当法人は事業活動を国内では東京を中心として、海外ではタイ国と米国で実施しました。

人材育成事業では昨年に引き続き資格認定事業とスクール事業を推進致しました。資格認定事業においては検査分析士資格認定事業が受験者を増加させているものの、昨年度より開始した検査分析マーケティングエキスパート資格認定事業に関しては未だに資格そのものの認知度が低く、受講者の増加をはかることが出来ませんでした。トリニティスクール事業では、講習会は若干の増加に留まりましたが、通信講座では一定の受講者を確保することが出来ました。

振興普及事業では、全般的な事業体制の強化をはかりました。展示会への出展支援事業を今年度よりマーケティング支援事業として通年で事業推進をはかれるようにするとともに、新たにコンテンツ制作事業(出版事業)の推進をはかりました。マーケティング支援事業は科学技術振興機構の Pittcon 出展の支援業務を受託し収入は大幅増となりました。JASIS 展では『携帯型分析機器ガイドブック 2013 年版』を制作し、ガイドブックの販売と共に広告による収入増をはかりました。また、不振が続く通信販売事業のテコ入れをはかるため、WEB サイトの一新を行いました。

社会貢献事業では、昨年に引き続き日本において機器分析に関するナーチャー賞エッセイコンテスト、タイ国で泰日工業大学の学生への奨学金の提供や日本語スピーチコンテストの賞金提供による日本語教育への支援等を実施しました。

平成 25 年度の活動組織

当法人の運営は、会員を中心とした委員会と、当法人の理事が常勤の事務局長をつとめ、3 名のスタッフと分析産業人ネット会員によるボランティア活動により実務活動を推進しています。

今期のトピックス

泰日工業大学から表彰（8月）

泰日工業大学へのスカラーシップの提供、日本語スピーチコンテストの共催等による貢献が評価され表彰されました。



Face book を開設し運用を開始（10月）



全国に散らばっている機器分析の実務者達のネットワーク構築を目指します。

3月末で「いいね！」が25名になりました。フェイスブックでは「いいね！」25名が一つの節目です。

教育・実習用機材の開発試作（3月）

初心者向けの実習講座に使う目的で、比色計、濁度計等を試作しました。



事業報告

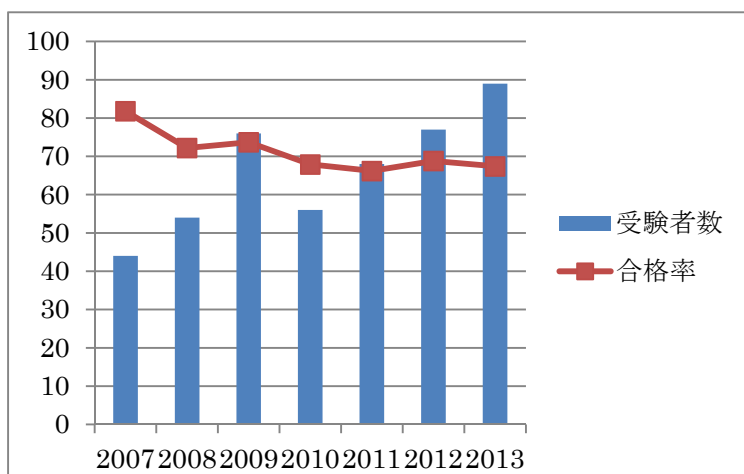
I. 人材育成事業

人材育成事業は当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して実施しています。

1. 資格認定事業

第7回の検査分析士資格認定試験を2013年7月27日(土)の午後、札幌、仙台、東京、名古屋、京都、福岡の6都市で行い、8月15日に初級合格者の発表、9月6日に中級と上級の合格者の発表を行いました。昨年から開始したマーケティングエキスパート資格試験は、検査分析士資格試験と同時に同じ会場で開催しました。受講者は6名でした。団体試験は2団体で受験者は10名でした。資格認定試験の不合格者で再受験を希望する方に対して試験結果の評価を行うサービスの利用者は、今年も不合格者全体の3割強でした。

資格試験合格者のその後のキャリア形成の支援を目的とした検査分析士会の会員は全合格者の4割弱で、入会しても2



年で退会をする方も多いため、会員の確保が課題となっています。今年度は会報への寄稿の勧誘や分析産業人ネットの行事等への参加等に関する内容を記載した「検査分析士会会員の手引き」を作成して配布しました。

2. トリニティースクール事業（講習会・通信教育事業）

今年度の講習会は昨年と同じテーマで講座を企画しましたが、受講者は依然として一桁の人数に留まりました。これに対して平成10年度より通年で開催しているパーマネント通信講座の受講者数は安定的に推移しています。現在のパーマネント講座のテーマ数は12テーマに過ぎないので、今後の課題はテーマ数の増加です。受講期間が1ヵ月のユビキタス通信講座は、講座数が8テーマと少ないこともあり、今年度はテーマ数の増加を推進したものの2テーマの増加に留まりました。

パーマネント講座受講者数

年度	受講者数
2010	31名
2011	34名
2012	25名
2013	28名

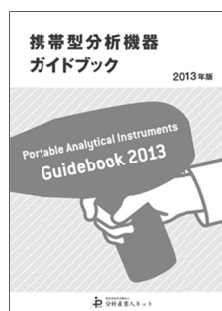
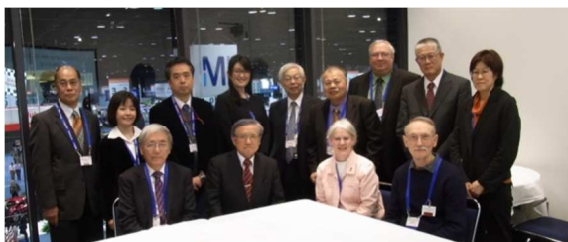
II. 振興普及事業

振興普及事業は当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して実施しています。

1. ビジネス支援事業（展示会出展事業改め）

米国で毎年行われる Pittcon は、機器分析の動向を知るために全世界から注目が集まるコンファレンスです。当法人はこの Pittcon の展示会にブース出展をして最先端の市場動向を調査すると共に、テクニカルプログラムの実施に協力をして日本の将来を担う中堅若手科学者が研究発表をする半日のセミナーを共催しています。今年度はこれらの活動を含み、Pittcon 会場での支援だけでなく、出発前から終了後のフォローまでを含めた支援を可能にする「Pittcon マーケティング支援プログラム」の提供を開始しました。また国内で最大の機器分析の展示会である JASIS 展では東京環境経営研究所の協力を得てブース出展を行い、同時に Pittcon のブースの支援を行いました。JASIS 展のブースでは資格認定事業やコンテンツ制作事業(出版事業)事業等との連携をはかり、これらの事業活動の支援を行いました。

Pittcon 主催者とのミーティング



2. コンテンツ制作事業(出版事業)

今年度は会報を含む冊子の編集から校正までの過程の内製化に踏み切りました。この結果、今まで発行の遅延が常態となっていた会報の定期発行の見込みがつかしました。また 4月に機器分析に関するエッセイコンテストの第1回から第4回までの優秀作品を集めた『もののしらべ』、8月に『携帯型分析機器ガイドブック 2013年版』、9月に泰日工業大学での4回の日本語スピーチコンテストでの優秀賞の受賞者の作品集『おもいをつむぐ』を発行しました。また、『機器分析の創業者たち』は本年も教材として提供をしました。

3. 通信販売事業

分析産業人ネット内の販売サイトは2005年にホームページを立ち上げた当時の技術で作成しており、販売品目の追加や削除等の作業を手軽に行うことが出来ない等、臨機応変の対応が困難でした。通信販売による一定の販売量の確保は当法人の持続的な発展には不可欠のため、カラーミーショップの機能を組み込んだホームページに一新しました。

Ⅲ. 社会貢献事業

当法人の社会貢献事業は日本においては「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって機器分析に関するエッセイコンテストを実施、タイ国においては「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて実施しています。

1. 機器分析に関するエッセイコンテスト

第5回となる今年度は応募総数が急増し17件となりました。受賞は応募者にとって励ましになるので、優秀賞と参加賞の間に、分析産業人ネットのミッションとビジョンに合致した作品に対して与える3つの賞を新たに設けました。受賞者は各2名です。

1. 機器分析に熱心に取り組んだ応募者を対象とするステュディオス賞：「ステュディオス(studios)」はラテン語由来の英語で「熱心な」の意味。
2. 機器分析以外の異なる業務を体験した応募者を対象とするファーストペンギン賞：「ファーストペンギン」とは、「最初に海に飛び込んだ勇気あるペンギン」の意味。
3. 機器分析を専門にしていない応募者を対象とするノウィ・ホミネス賞：「ノウィ・ホミネス(Novi Homines)」はラテン語で「新人」の意味。

2. タイの泰日工業大学の日本語スピーチコンテスト

9月に3年生を対象とするコント形式のコンテストを、1月に日本語の履修時間が多い学生を対象としたスピーチ形式のコンテストを行いました。



3. タイの泰日工業大学学生への奨学金 (PAI-NET FUND)

今年度も2年生、3年生、4年生各3名に対して一人1万バーツの奨学金を支給しています。既にこの奨学金を受給した卒業生が6名おり、在校生を含めて9月に同窓会を行いました。卒業生の内4名が日系の企業に就職しています。



4. バングラディッシュの理科教育支援

NPO 法人 Science Forum 21 を通してバングラディッシュの地方都市 Chittagong、Khulna、Jamalpur の3都市で実施したセミナーの支援を行いました。

IV. 法人の運営状況

1. 組織

当法人の運営は理事会で経営方針、経営計画等を審議し、事業については外部の委員も加えた委員会において経営計画に基づいた活動計画等の審議をし、この方針、計画に基づいて事務局で実務を行っています。また事務局の活動を補佐する会議が設けられ、この会議では主に事務局での実務に対するアドバイスと支援を行います。また今年度は事業活動の推進のため、事務局員を1名採用しました。この結果、当法人の活動は理事を兼ねる事務局長と常勤スタッフ3名、それに非常勤のボランティアにより推進しました。

当法人の活動を円滑に推進するために事業活動を行う組織として、トリニティスクール、機器分析・実務支援センター、事業推進センターの3つの組織を設けています。トリニティスクールは人材育成事業の一翼を担う講習会・通信講座の運営を行い、機器分析・実務支援センターは企業等の組織と個人（実務者）に対する支援を、事業推進センターは事業活動に必要な調達活動や販売実務を行います。

2. 財務

当法人の活動は会員の会費収入、寄付、事業収入を基に行っています。持続的な活動の継続のために総支出金額に対して8割を事業活動による収入で賄うことを目標にしていますが、今年度も事業収入で充当できる額は6割強に留まり、4割近くを会費収入と寄付に頼りました。また、社会貢献活動では別途「ナーチャー基金」を設立して寄付を募りました。

3. 投資

通信販売をするネットバザールのホームページを一新するための更新投資を行い、通信販売の中核商品とする「機器分析の教育用機材」の商品評価をするため簡易水質検査キットを購入し、専門家に評価を依頼しています。

また、開発投資では不振の講習会事業を立て直すために来年度実習講座の開催を企画し、この講座に利用する器材の開発を行いました。

4. 広報

外部に対してWEBをベースとした広報活動を行っています。分析産業人ネットのホームページでは、通信講座や資格試験の募集等の業務も行っていましたが、今年度は新たにFacebookとTwitterを導入しました。また検査分析士資格を取得した実務者向けの検査分析士ホームページと分析産業人ネットの英語のホームページを独立したホームページとして検索をし易いホームページにしています。紙媒体では会員向けに会報「NURTURE」を、検査分析士向けに会報「SHUHARI」を年4回発行しています。

特定非営利活動法人分析産業人ネット

英文名 Professionals' Net Work in Advanced Instrumentation Society

設立 2004年11月24日

事務所所在地 〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2-6 淡路ビル4F

電話 03-5294-3115 FAX 03-5294-3344 E-mail info@pai-net.or.jp